

2018・1・20

滝石史談会 第24回会員自主研究成果発表会

昔語り

スガリぶんぶん

儀府 成一 (旧御所村出身) 作

民話の童話集「さささ、さらさら」より



語り； 会員 上野ヒデ子

本の題名の「さささ さらさら」は —清々しい竹の葉擦れの音—をイメージして名づけたと作者の儀府さんは言っています。

<スガリ>…スズメバチのことを岩手ではこう呼びます。

昔ある所に、二組の年寄り夫婦の家がありました。——

右のほうは、欲たかり爺様、左のほうは、くれたがり爺様……

くれたがり爺様にはいつもいいことがあるのをねたんだ欲たかり爺様が、ある日、くれたがり爺様の唱える“じゅ文”を真似したつもりが、間違えてしまい、スガリが大襲来！欲たかり爺様に襲いかかります。人をねたむことなかれ、の教えです。

幼いころ母から聴いて覚えたたくさんの昔話を「民話の童話集」としてまとめて本にした儀府さん。「明治に生まれて、貧乏ばかりして、生みの親と育ての親と四人もの親に恵まれながら何一つ報いることもなく親不孝ばかりしてきた私のせめてもの“母への恩返し”のつもりです。」と語っています。

今日は、つたない私の語りですがどうぞお聞きください。